

世界で働く面白さ実感

八学光星で外務省講座

八戸

八戸市の八戸学院光星高校(小野崎龍一校長)で19日、外務省職員による「高校講座」が開かれた。在日米軍との調整などに当たる



入谷室長⑤の説明に耳を傾ける生徒たち

「日米地位協定室」の入谷貴之室長が、講演と座談会を通じて生徒たちに外務省の役割を紹介。生徒たちは世界を相手に働く面白さに触れ、自分たちの夢の実現に向け刺激を受けた。

入谷室長は特進コース1〜3年生64人を対象に講演。米国やロシアの日本大使館などに勤務した際のエピソードを紹介した。

座談会には代表の生徒6人が参加。生徒たちは入谷室長を前に緊張した面持ちで「外国の面白いところは」「語学学習のコツは」などと質問した。入谷室長は「外国語の勉強

を通じて、その国の文化を学ぶのが面白い。学習を通じてこんなことをしたい―

という目的を持つことが大切」などと回答した。
3年の井上怜音さんは「外交に実際に携わっている人の生の声が聞けて良かった」と話し、同じく3年の赤石未羽さんは「発展途上国で看護師として働きたいという気持ちが強くなりました」と笑顔を見せた。